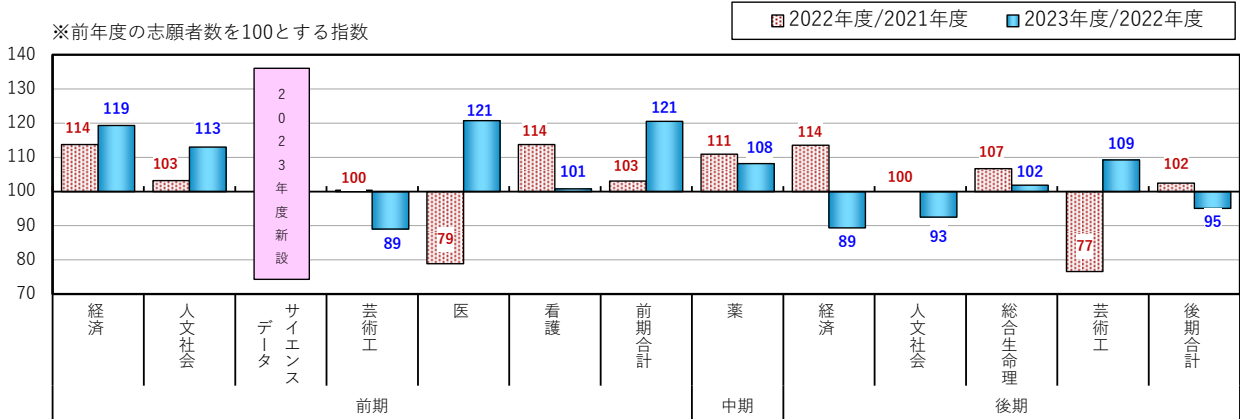


名古屋市立大：前期は志願者数大幅増加も志願倍率は前年度並 前期：+279 人 中期：+96 人 後期：-73 人



主な入試変更点 学部新設…データサイエンス 募集人員：<前>50 人
 第1段階選抜基準変更：医(医)<前>
 …「総配点 550 点中の概ね 73%以上の者」を 2022 年 1 月 19 日に「総配点 550 点中 390 点以上(概ね 71%以上)に変更
 →「総配点 550 点中の概ね 71%以上の者を対象に募集人員の約 3 倍」を 2023 年 1 月 18 日に「総配点 550 点中 400 点
 以上(概ね 73%以上)の者を対象に約 3 倍」に変更
 募集人員：経済<前>…120 人→140 人
 看護(看護)<前>…45 人→60 人

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期はデータサイエンスの新設もあって 279 人(121)の大幅増加。ただし、募集人員増加で、志願倍率は 3.3 倍の前年度並。また、既存学部合計でも 145 人(111)の増加で 3 年連続増加だが、こちらも経済と看護の募集人員増加で、志願倍率は 3.3 倍で前年度並。後期は 73 人(95)のやや減少で 3 年ぶりに減少だが、志願者数は 3 年連続で 1,400 人台。中期は薬のみの募集だが、系統への高い人気から 96 人(108)の増加で 2 年連続増加、学科別では、4 年制の(生命薬科学)(119)は前年度増加に引き続き大幅増加、6 年制の(薬)(102)も微増だが 2 年連続増加。

- <前期日程>
- 経済(119)**は、大幅増加で 2 年連続増加だが、募集人員も 20 人増加(募集人員の前年度対比指数 117)のため、志願倍率は 3.9 倍→4.0 倍とわずかのアップに留まった。
 - 人文社会(113)**は、増加で 3 年連続増加。学科別では、(現代社会)(155)は前年度減少の反動で 50%以上の大幅増加、志願者数は 8 年ぶりに 170 人を上回った。一方で、(国際文化)(91)は 2 年連続増加の反動で減少、(心理教育)(95)も前年度増加の反動で減少。
 - 新設の**データサイエンス**は、募集人員 50 人、志願者数 134 人で、志願倍率は 2.7 倍で、経済の 4.0 倍をかなり下回った。
 - 芸術工(89)**は、3 年ぶりに減少だが志願者数は 200 人台を維持。学科別では、(情報環境デザイン)(118)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、特に<小論文>(121)の大幅増加が目立った。一方で、(建築都市デザイン)(77)は 2 年連続大幅増加の反動で大幅減少、(産業イノベーション)(91)は減少で 3 年ぶりに減少だが、志願者数は 40 人台を維持。
 - 医(医)(121)**は、第 1 段階選抜基準について、過去 2 年間共通テスト終了後の水曜日に基準変更を発表したので、自己採点集計には反映されないのが、次年度以降も注意が必要。前年度大幅減少の反動と共通テストの平均点のアップにより、大幅増加で、2019 年度に 2 段階選抜導入後では 2 番目の志願者数。
 - 看護(101)**は、微増だが 2 年連続増加。募集人員の 15 人増加(募集人員の前年度対比指数 133)で、志願倍率は 2.8 倍→2.1 倍にダウンで競争緩和。

- <後期日程>
- 経済(89)**は、2 年連続増加の反動で減少。方式別でも、<E コース>(89)は前年度大幅増加の反動、<M コース>(90)は 2 年連続増加の反動でいずれも減少。
 - 人文社会(93)**は、やや減少で志願者数は 3 年ぶりに 300 人を下回った。学科別では、(現代社会)(158)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、志願者数は募集人員が 8 人となった 2020 年度以降で最多。一方で、(心理教育)(68)は 2 年連続大幅増加の反動、(国際文化)(78)も 2 年連続増加の反動でいずれも大幅減少、志願者数はいずれも 3 年ぶりに 100 人を下回った。
 - 後期のみの募集の**総合生命理(102)**は、微増だが 2 年連続増加。
 - 芸術工(109)**は、前年度大幅減少の反動で増加。学科別では、(情報環境デザイン)(137)は 3 年連続大幅減少の反動で大幅増加だが、志願者数は 2021 年度には及ばない。(建築都市デザイン)(106)は前年度大幅減少の反動は小さくやや増加。ただし、<実技>(130)は大幅増加。(産業イノベーション)(98)は 1 人減少だけで前年度並。